

## くにたち音訳グループの活動の起源を教えてください。

昭和49年に図書館が開館し、2年目から対面朗読が始まりました。

昭和53年に図書館のしょうがいしゃ担当が決定し、テープによる録音が始まり、昭和59年に音訳者養成の初級講座、昭和60年に中級講座が開催され、ここから本格的に音訳活動が始まりました。

## 会の構成人数を教えてください。

令和元年4月現在で20名です。10月～11月に初級講座で15名が修了し、現在計35名になりました。

## 活動内容を教えてください。

しょうがいや高齢などの理由で通常の読書が困難な方々のために、資料を音声化し提供する活動をしています。

- ・利用者からのリクエスト図書作成
- ・市報、市議会だより、くにたちの教育など、国立市内で発行されている定期刊行物
- ・新聞記事の抜粋、新聞のコラム読み比べ、アサココ
- ・対面朗読

以上の録音では、下調べから始まり、写真・図・表・グラフ等、目に入る情報全てを文章化します。

## 活動の中で印象に残っている出来事などがございましたら教えてください。

録音方法がテープからデジタル<sup>1</sup>に変わったことです。デジタルは音訳者にも利用者にも画期的で、国立市では、平成20年に導入しました。

しかし、自腹でのパソコン・周辺機器の購入、録音・編集する作業は、機械音痴の私たちにとっては大変なことでした。利用者の「便利に使える、情報量が増え生活が変わった」という言葉が支えになりました。また、平成21年の著作権法改正で、公共図書館においても、ほとんどの作品が著作権者の許諾なしで録音が可能になりました。今まで、許諾を得るまで時間がかかることが多く、このことで利用者へ届く時間が短縮されました。

## 今後の課題はありますか。

平成30年の著作権法改正でしょうがいしゃサービスが拡大されました。視覚、発達、知的しょうがいしゃのみならず、肢体不自由の方など物理的に利用できない方々に録音図書を提供できるようになりました。これから、図書館の取組や私たち音訳者の力量が問われてきます。また、AIや合成音声の発達によって私たち音訳者の将来はどうなるのか。人だからできること、人にしかできないことへの追及等、更なる音訳技術の向上に努めていくことになるでしょう。

## 活動の中で嬉しかったことはありますか。

毎年5月、利用者の方々との交流会があります。貴重なご意見は、私たちに刺激を与え、今後の活動の参考にさせていただくことがたくさんあります。毎回、和気あいあいと楽しい場になっています。利用者との出会いも貴重ですが、私たちは音訳を通し、多くの方々との出会いもあります。仲間の支えがあることで、厳しく辛い音訳も乗り切れます。また、色々な本との出会いも喜びです。興味のなかった本との出会いは、知的好奇心を高めてくれます。人と本との出会い。これが音訳の醍醐味でしょうか。

## 最後に一言お願いします。

今日があるのも諸先輩方のご尽力の賜と改めて感謝しております。私たちは利用者あつての活動です。利用者へ満足していただけることが何よりの喜びです。しょうがいしゃの「知る権利」を支え、サポートすることが役目です。誰のために、何のためにやっている活動か常に問いかけながらやっていくことを心がけていきたいと思えます。

<sup>1</sup>Digital Accessible Information System の略で、デジタル録音図書の国際標準規格であり、専用の機械やパソコンにソフトウェアをインストールして再生することができる。



# くにたち音訳グループ

社会奉仕功勞

昭和60年 くにたち音訳グループ 設立